

小学生の英語教育で親が知っておくべき本当に大事な5つのこと

はじめに、自己紹介

鏑木稔と申します。25年間東京の東部、中央区、江東区、葛飾区、江戸川区、墨田区で学習塾を運営しています。進路指導や受験相談件数は優に1000名、合格者は6000名を超えています。御三家を初め、あらゆる層の受験対策をしてきました。7年前にグローバル時代の到来にも関わらず一向に進まない日本の英語教育に危機感を感じ、普通の小学生が英検2級に合格する英会話スクール、Global Learner's Institute(以下GLI)を設立しました。小学生で英検2級に合格する実績を出し、現在では中学から海外の名門校に進学を希望する子供も向けに受験対策を行っています。しかし、受験が目的の詰め込み教育ではなく、学習の結果受験にも合格する事が真の教育と受験の関係だという信念は変わらず持ち続けたいと考えています。



1、序章～教育とは何か？を再確認する

・教育の目的を理解できていますか？

英語教育を論ずる前にまず教育とは何か？この質問を考えないと英語教育自体が的外れになってしまうと思います。しかしこの質問に的確に答えられる親はそう多くは無いと思います。ある人は将来の可能性を広げてあげることと言い、ある人は好きな仕事ができる様にといい、どちらも正解ですが実はその上の目的があります。それは豊かで幸せな人生を送る為の準備です。しかし豊かさや幸福の定義は時代によって変わるし、その実現方法もしかり。よって教育とは時代によって変わる豊かさや幸福を叶える為の準備作業と言えます。教育はいつの時代も未来に対する準備作業です。時代によって少しずつ変わる準備作業を親が見定めて子供に提供してあげる事が親の役割と言えるでしょう。このことを理解しておかないと、お金や時間をたくさんかけてあげた挙句、「お母さん、私は幸せを感じられない！」という結果になりかねません。幸か不幸か、教育の結果は数十年後にしか出ません。このことが非常に厄介なのです。だから親としては本当に何の為の教育なのかを理解して子供に関わっていただきたいと強く思います。

・なぜ日本人は幸福度ランキングが低いのか？

先ほど教育の最終目的は豊かで幸せな人生を送る準備作業と書きました。しかし気になる指標が一つあります。世界幸福度ランキングというOECDが毎年発表する指標では、日本人のそれは54位(21年)と先進国では最下位なのです。どうしてこれほど豊かで安全で勤勉で道徳的な国民の幸福度がこれほど低いのか？私はこの事を教育的見地からずっと追求してきたのです。

・幸福感を感じる要因

何が日本人の幸福度を下げているのか？OECD調査で6つある評価指標の中で特に低いのが、自己選択の自由と社会的寛容度です。社会的寛容性は日本の国民的気質としてなんとなく解るとして、自由選択に関しては、日本は民主主義の国だから、自分の人生は自分で決定する自由は担保されているはずですが。それにも関わらず日本人が自分達に人生の決定権が無いと感じている理由は何なのか？私が長年子供やその親、大学生アルバイト講師と関わって解って来た事は以下の二つです。

一つは日本の同調圧力です。

出る杭は打たれる文化とも言えます。家長制度や村社会文化から来ているのでしょうか。異質を嫌う文化がまだまだ根強く、自由にしたいのにできない社会。ここに生きづらさを感じている人はたくさんいるはずですが。

二つ目が特に重要です。

生きる為には仕事が必要です。お金を稼がなければ生きていけません。でも日本でお金の稼ぐ方法は、就活に代表される様にほとんどの人が企業に就職する事です。そして日本では、その人個人の価値よりは組織のメンバーの一因として働く事が求められています。つまり組織に属する事でお金を

稼いでいて、自分のビジネス界での何か特別な能力で仕事をしている訳ではないのです(そのような専門職の人もいますが多くのビジネスマンという意味で)。転職したくてもできない、という事実がそこにあります。どんなに嫌いな上司でも、どんなに嫌な仕事でもその会社にしがみついているとお金が稼げない。私はこの事が人生の選択肢を狭め、自由選択できないという意識を産んでいる要因の一つだと考えます。もし自分に何かしらの価値があったなら、その価値をうちの会社で欲しいと言われる能力があったなら、いつでも転職できますし、在宅勤務も可能な現代では、働く場所すら自由に選べるのです。しかし、長らく続いた日本式の教育では、自分の特質を知り、価値を高めるといふ訓練を受けて来ていません。良い学校に合格し、良い会社に就職する事が最大の目的に設定され、仕事とは何なのかとか、働くとはどういうことかなどを考える事なく就活を迎えます。点数を取るためだけの勉強をし、大学に入ったらアルバイトとサークルに明け暮れ、働く事や、仕事、自分の将来などを考えるのは大学3年生になってからです。就きたい仕事ややりたい事を見つけるのはそう簡単ではありません。一生かかっても見つからない人もいます。これでは自分の道を探したり能力を高めたりする時間などありません。このことは就職してからも続き、社会人が大学に再入学したり、大学院に入学したりする割合は世界に比べOECD加盟国の中でも下位に位置しています。このことから解る通り、日本人は自分の価値を高める意識が低く、属する事でしか仕事ができないという事実が浮かび上がります。この事が人生の自由選択の可能性を下げ、望まない環境にもいつづければならないという窮屈さを感じさせ、最終的には幸福感を下げているのだと思います。

また、親や社会の無意識の圧力もあります。地方の高校生の相談でよくあるのですが、自分は海外に留学したいし、親の経済力を考えても留学可能なのですが、親や学校の先生から地元の国公立を勧められ従わざるを得なかった、と。また、就活の時も、自分はベンチャー企業が良かったが、親が有名企業にしろと許してくれなかった、など。偏差値教育同様、親世代の古い価値観に沿った型にはめられ、自由選択できない事が不幸福感の根底にあると考えます。

・昔と違うを理解する

保護者世代が育った環境とは全く違う世界を生きる子供達。その著しさはこの10年でこれまでの100年分の変化が起こると言われる程です。10倍のスピードで世界が変わるのです。昔は世界の情報に触れるのは日本のニュースが知らせる範囲の事だけでした。誰が大統領になったとか、どこで戦争が始まったとか、そのくらいのBIGニュース以外はほとんど知り得ませんでした。知る必要もありませんでした。それは日本国内だけで十分幸せに生活できたからです。

また、日本では急速に少子高齢化が進んでいます。子供達が働き盛りになる2045年には日本の人口は1億人を切ります。人口1億人を割り込んだ日本はどうなると思いますか？1.5人の労働者で1人の老人の年金を賄う様になります。年金制度は今のまま続くと思いますか？消滅都市は………そして何より日本の経済力は急速に落ちていきます。物価は30年上がらず、世界に比べ圧倒的に購買力が低下しています。日本では700~800円でものすごく美味しいラーメンが食べられますが、アメリカでは2000円を超えます。

さあ、これだけ見ても昔とは大きく違った日本がやってくる確率はかなり高そうです。世界稀に見る超少子高齢化社会。誰も経験した事のない社会の到来。

親としてはいつの時代も誰もが知る安定した企業に就職して欲しいと願っているはず。その為に自分が通って来た受験→学歴という過去のゴールデンルートに乗るための教育を子供にも与えようとするのは無理もありません。ですが、、世界は変わってしまったのです。いや、変わりすぎてしまったのです。この事に気付いていないのは、おそらく日本人だけなのです。なぜなら日本国内だけ

で事足りたから。日本国内だけで十分過ぎるくらい豊かな生活ができたから。でもおそらくそれは続きません。各種統計データは嘘をつきません。そのデータを元に真剣に考えなければならない時代に突入しているのです。親の役目として、その事だけは肝に命じて子育てをしていただきたいと思いますし願います。このことは個人の将来の幸せや一つの学校の生き残りを超えた重大さをはらんでいる事も最後に添えておきます。

2、本章～英語教育について知っておくべき5つのこと

さて、ここからが本題です。

小学生の保護者が英語教育について知っておくべき5つのことをご紹介します。これは子供を英語だけで授業をする小学校に入れ、中高と過ごした経験、そして自身で英会話スクールを運営してきた経験、学習塾を25年経営してきた経験、学校教育に関わった経験からのお話です。

・英語は勉強の対象ではなく、コミュニケーションの手段

親として本当に子供に英語力をつけさせてあげたいと思ったら、まず考えるべきことは、英語は勉強の対象ではなく、コミュニケーションの手段だということです。私たちが受けてきた英語教育は、点数を取るテストの為の英語教育です。その結果どうなったかと言えば、中学3年間、高校3年間、大学4年間の計10年間、しかもかなり真剣に勉強したにもかかわらず使える英語力が身につけていないという不名誉な有様です。

小学生が高度(ここでは英検準2級～2級程度としておきますが)な英語力をしかも有効に使えるレベルで身につける為には、(断言します)英語はお勉強ではない事を伝えてあげるべきです。

ここから派生する事実こそが、小学生でも使える英語力を身につける為に理解しておくべき大事なこととなります。

・英語を使って学ぶ

続いて大事な事は、英語を使って学ぶという事です。私が経営する児童生徒向け英会話スクールでは、英語そのものの勉強に多くの時間をかけません。つまり文法問題のパターン演習や英単語、熟語の暗記とテスト、リーディングの為の構文読解などはしないという事です。厳密に言えば小学生なのでできません。ではどうするかといえば、英語を使って他の教科を学ぶのです。理科や社会などの世界のでき事をプロジェクトにして、調べて、まとめて、友達や先生と議論して発表するのです。このスタイルの第二言語習得法をContents and Language Integurated Lesrning(以下CLIL)と言います。そこにProjecto Based Leaining(以下PBL)型の問いを設定して、例えばチーターはどうして足が速いのかとか、雪はどうして冷たいのかとか、太陽はどうして東から昇るのかなどの問い(プロジェクト)に対して深く追求するスタイルの学習方法です。このCLILとPBLこそが、子供が興味関心を持つ

て主体的に学習に取り組む学習方法なのです。ですから文法や単語が載っているワークブックを解かせる方式をとる英語教育は特に小学生にはお勧めしません。

・英語学習に目的を持たせる

次に知っておいていただきたいこと、それは英語学習に目的を持たせると、子供達は学習に前向きになるという事です。別の言い方をすれば、経験や体験と絡めるという事です。これも英語を使う事も重なります。GLIではさまざまなイベントが設定されています。フィールドトリップは、外国人がたくさんやって来る浅草や築地に行ってインタビューをし、習った事を実際に試します。自分の言葉や考えが通じた時の気持ちを想像して下さい。学ぶ意欲が高まりますよね。インターナショナルデイでは、海外の子供達とオンラインで繋いで、共同学習をします。2022年のクリスマス会はフィリピンのミンダナオ島の孤児院で暮らす子供達と幸せについて考えました。日本は経済的には豊かで安全です。ミンダナオ島の子供達は経済的には恵まれていなくても仲間と助け合いながら楽しく生活しています。果たして幸せってなんなのだろうと考えました。こうする事で子供達の世界観が広がります。家と学校と塾だけで生きてきた世界観が一気に世界へと広がります。自分とは違う世界があるということ。そこにも同じような子供が生活していること。でもどうやら考え方や生活スタイルは違うということ。それらを学ぶ事で、自分の未来や世界がイメージしやすくなるのです。そして英語が使えるからこそその経験として、GLIでは小学生から海外へスタディーツアーに出かけます。コロナ前はネパールに行き現地の小学生と一緒に勉強し、日本の事を伝える為にプレゼンをしました。中高生は2022年、バングラデシュに行き、グラミン銀行のマイクロファイナンスを直に体験しました。2023年の春はハワイです。ハワイには日本が排出するプラスチックゴミがたくさん漂着し、野生動物を苦しめ環境破壊をしています。現地のNGO団体とゴミの回収作業をして、在ハワイ日本大使にハワイの伝統文化についてお話を聞き、ゴミ問題解決の策を考えてハワイ大学の教授にプレゼンをするという内容です。こうやって英語ができることで世界が広がるということ、英語はコミュニケーションの手段だということを理解する事で、さらに英語を学びたいという意欲から、英語を使って何を学ぶかに焦点が移るのです。その結果、英語はおろか学習そのものの意欲も高まるのです。なぜなら学ぶことは社会と密接に繋がっているからです。その事が解ると子供達は言われなくても学び行動し始めるのです。

・海外留学受験の事実

次は将来もし海外留学する場合に知っておいていただきたい受験の事実です。日本の総合型選抜でもビタテ留学ジャパンの様な奨学金制度の基準でも求められる資質能力です。海外の大学入試は日本の様にテストの点数だけで合否が決まるものではありません。海外の受験では学校の成績(評定平均)と志望理由書が重要になります。志望理由書とは、一言で言えば社会と関わる意欲と行動力です。勉強以外にどのような活動に参加してどのような経験をし成長をしたのかを選考者に伝わる様に説明しなければなりません。つまり、日本の教育(=受験勉強)では、学校と家と塾のトライアングルゾーンでしか生活していかなくとも、社会と関わる機会など全くなくても大学へ行けてしましますが、海外ではそうはいきません。この社会と関わる中で発見した”学ぶ動機”は、そう簡単には身につかない事を保護者の方には理解しておいていただきたいです。受験勉強は1~2年あれば何とかできます。しかし意欲や目的意識はそう簡単には身につかず、小さい頃にその芽を摘んでしまうと、再生するのは難しいのです。

・本当に使える英語力を身につけるために絶対にやってはいけないこと

最後に本当に使える英語力を身につけて欲しいと思ったら、絶対にやってはいけない事をお話しします。それは、勉強の様に学ぶ事を強いて、テストの様に結果を求める事です。私たちの世代にとって勉強はテストの為にするものであり、良い点数や合格が目的でした。単元という定められた学習内容を暗記するかパターンを覚え切るまで学習させられ、それができて、良い点数が取れる子が良い子で、取れない子はダメな子と評価されました。しかし、考えてみて下さい。日本語を覚える時に幼稚園から文法を習いましたか？決して習っていませんよね。学年を越える言葉や漢字を覚えさせられましたか？これは少しありそうですが、決して学校のテストでは小学1年生で中学1年生の漢字を答えさせられる事はありませんでした。そうです、語学は繰り返して習得できるものであり、そうだとするならば繰り返し、使いたい、覚えたいと思わせる事が大事なのです。語学は繰り返せば繰り返すほど覚えます。そうだとしたら何回も使いたいと思ってもらう環境を設定する事の方が大事だと思いませんか？よく見る光景ですが、できたの？覚えたの？と問い詰めてしまって、果ては英検合格だけをゴールにしてしまう保護者がいますが、果たしてそれで良いのでしょうか？英検2級は合格自体はできますが、その事自体は英語が使える事を意味しません。それは私達が証明しています。学び方次第では英検3級でも使える英語力は身につきます。英語を学ぶ目的は、世界中のもっと多くの人に自分の思いや考えを伝えられる様になる事です。その事によって自分の世界が広がる事です。そうだとするならば英語のテストや資格に躍起になるのではなく、英語を使って自分の思い、すなわち興味あること関心ある事を発見し思いを深め、それらを伝える事の方が大事なのです。果たして皆さんはいかがお考えでしょうか？

大人にとっては単なる英語学習ですが、子供にとっては将来進む世界が左右される大事な大事な手段を獲得できるかどうかの分かれ道なのです。もちろん大きくなってからでも英語力を身につける事はできますが、英語を使って小さい頃から見聞きした経験は大きくなってからでは得られません。子供の頃の感性で触れる世界は大人では再現し得ない宝です。だから小学生の時の英語学習は単なる資格検定の取得云々の話でもなければ、単なる英語力の獲得云々の話でもなく、英語という望遠鏡を使った広く深い壮大な世界を心に刻み込む事ができるかどうかの重大な問題なのです。保護者の方には単なる点数と考えるとその道を奪わないでいただきたいです。大事に大事に関わって、子供の未来を世界へと広げてあげていただきたいです。

終

Profile

教育界における校長・社長の二刀流。留学から帰国後、個別指導の学習塾に就職し、25年間学習塾の経営に関わる。生徒数は最高2,200名。正社員、アルバイト含め250名の学習塾を作り上げる。25年で行ってきた進路指導は優に1,000名、輩出した合格者は5,000名を超える。民間人校長をはじめ、私学の学校改革にも携わる。組織マネジメントとプロジェクトマネジメント、そして自作のグローバル教育の導入を支援する。学校の中と外、教育現場と企業現場を知る強みを活かして、これから日本の教育界が進むべき道を切り開く。座右の銘は、人生一度きり、人生自由旅行、人生大爆笑！泣いて笑って怒って泣いて、生きてる実感ここにあり。輝け命、目指せハッピーライフ。



GLI ONLINE ENGLISH

Cultivating individuals for the future